

目次	
社長メッセージ	1
新任取締役のご紹介	2
事業紹介と概況	3
数字で見るラクト・ジャパン	3
特集：食肉加工品事業	4
コミュニケーションのひろば	6
株主メモ	6



A Message from the President

社長メッセージ

日頃よりラクト・ジャパンに格別のご高配を賜り、厚く御礼を申し上げます。世界に深刻な打撃を与えている新型コロナウイルスの感染拡大は、ワクチン接種の進展で事態収束の兆しが見え始めたものの、変異株の出現など、予断を許さない状況が続いています。

前例のない環境下ではありますが、当社グループでは、創業以来培ってきた調達力とお客さまとのパートナーシップを駆使して「食の安定供給」に貢献するとともに、取扱商品の増加と新規事業拡大へのチャレンジも継続しています。アフターコロナでの飛躍に向けて邁進するラクト・ジャパンにご期待をお寄せいただければ幸いです。



代表取締役社長
みうら もとひさ
三浦 元久



コロナ禍の影響を受けるも、利益は期初予想を上回る

2021年11月期第2四半期連結累計期間(以下、当第2四半期)においても、食品原料の需要はコロナ禍の影響を大きく受けました。いわゆる“巣ごもり消費”による内食ニーズから、小売製品向けの原料の需要は底堅く推移した半面、「緊急事態宣言」や「まん延防止等重点措置」が相次いだため外食・レジャー産業の回復が遅れ、業務用食品向けの原料の需要は低調でした。この結果、当第2四半期の売上高は前年同四半期比で9.1%減となりました。一方、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同四半期比では減益となったものの、ともに期初予想を上回りました。

取扱商品多様化の取り組みが進む

当第2四半期を事業別に振り返ると、乳原料・チーズ事業では、既存商品に加えTPPや日欧EPAなど低率関税枠を活用した輸入乳原料の販売増加がありました。また国産品の在庫削減を目的とした政府などの対策事業に応じ、飼料メーカーや食品メーカーへの国産乳原

料の販売に参画しました。食肉加工品事業では、近年取り組んできた取扱商品の多様化が実を結び、特に牛肉の販売が増加しています。当社の成長エンジンであるアジア事業では、チーズ製造販売事業が好調でした。感染症不況から回復を見せる中国などの旺盛な乳製品需要への対応や、アジア各国向けの堅調な内食向け需要を取り込むことで、販売数量を伸ばすことができました。また、シンガポールとタイに展開しているプロセスチーズ工場の生産効率の向上により利益率が改善しており、連結ベースでも利益貢献度が高まりました。

昨年度から始まった機能性食品原料の販売では、家庭内でのトレーニング需要のほか、健康食品として注目するライトユーザーの増加などにより、乳プロテイン原料が伸長しました。中期経営計画「NEXT-LJ 2023」に掲げる“新規ビジネスの構築”に向けて、取扱商品の増加と、新規事業の拡大に注力してまいります。

株式会社ラクト・ジャパン
代表取締役社長

三浦元久

Introduction of New Directors

新任取締役のご紹介



あべ たかし
阿部 孝史

乳原料・チーズ
事業管掌
事業開発本部担当

私は1991年に社会人になって以来、一貫して乳製品原料の営業畑を歩んでまいりました。30年にわたる社会人生活の中では失敗も成功もありましたが、こうした経験を通して社内外、国内外の多くの皆さまから頂戴したご理解・ご支援の全てが、現在の私自身につながっています。改めて御礼申し上げます。度々乱れることのない、ブレない心持ちである“不動心”を持ち、社業の発展に邁進したいと考えております。また、株主さまをはじめ、現場の社員やサプライヤー、お取引先さまのお考えを拝聴し、理解することにも重々留意していく所存です。休日には、ゴルフやドライブ、釣りといったアウトドアを楽しんでリフレッシュしています。



こじま しん
小島 新

アジア事業管掌兼
LACTO ASIA PTE.
LTD. 社長

このたび、アジア事業の担当取締役に選任いただき、たいへん身の引き締まる思いです。私は長らく乳製品原料の営業に携わってききましたが、2016年からは成長著しいアジア地域の戦略の中軸を担うアジア事業部門の責任者(LACTO ASIA PTE. LTD. 社長)として、シンガポールで勤務しています。日本とアジアという事情の異なる2つの市場を経験する中で培ってきた乳製品販売の専門性と、プロフェッショナル集団としての営業力、提案力を活かして、常に初心を忘れることなく、事業拡大のために精進してまいります。プライベートでは体を動かすことが好きで、ゴルフやテニスのほか、スポーツ観戦、カラオケを嗜みます。



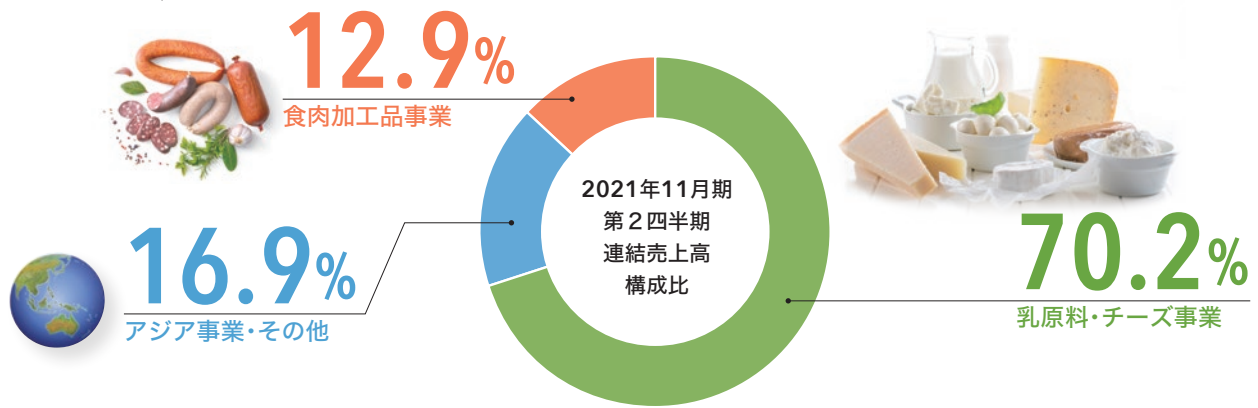
やまだ しんいち
山田 真一

常勤監査等委員

私の座右の銘は「一隅を照らす」です。一人ひとりが自分の立場で最善を尽くすこと、これが会社全体の成長に大切であると考えております。今回選任いただいた常勤監査等委員の役割は、より独立した立場で社内の意思疎通と情報共有を進め、コーポレート・ガバナンスの一層の充実に資することです。コーポレート部門での内部統制などの業務経験を活かして、さらには自己研鑽を積むことでこの職責を果たし、当社グループの健全な発展に貢献できるよう努める所存です。特筆すべき趣味・特技はありませんが、小旅行や散歩で休日をそれなりに楽しめることが特技といえるかもしれません。



事業紹介と概況



乳原料・チーズ事業

海外から安全な乳原料やチーズを仕入れ、日本国内の乳業・菓子などの食品、飲料、飼料メーカー等に販売しています。

販売数量	91,993 トン	前年同期比	6.4%減
売上高	369 億 52 百万円	前年同期比	7.5%減

食肉加工品事業

海外から豚肉および生ハム・サラミなどの加工品を仕入れ、国内の食品メーカー、卸売会社等へ販売しています。

販売数量	12,567 トン	前年同期比	9.7%増
売上高	67 億 69 百万円	前年同期比	10.8%増

アジア事業・その他

グローバルで調達した乳製品原料をアジア地域で販売するとともに、自社ブランドのチーズの製造販売も行っています。

売上高	89 億 26 百万円	前年同期比	24.8%減
-----	-------------	-------	--------

乳原料販売部門

販売数量	22,690 トン	前年同期比	35.0%減
売上高	68 億 9 百万円	前年同期比	32.8%減

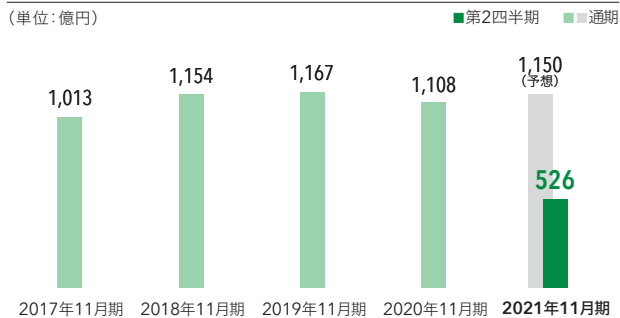
チーズ製造販売部門

販売数量	2,334 トン	前年同期比	17.6%増
売上高	16 億 89 百万円	前年同期比	24.9%増

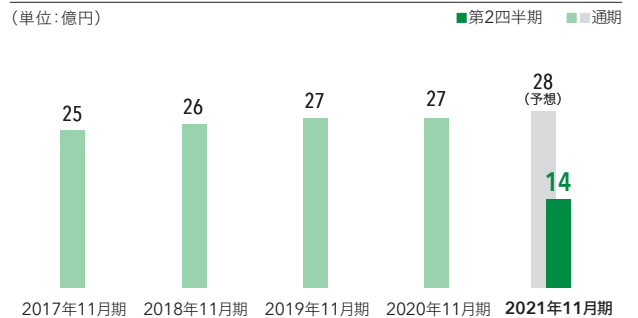
LACTO JAPAN in Numbers

数字で見るラクト・ジャパン

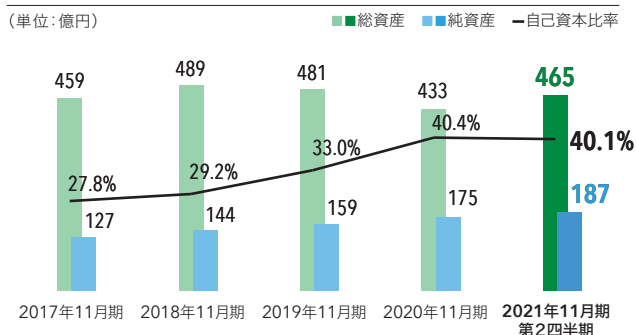
売上高



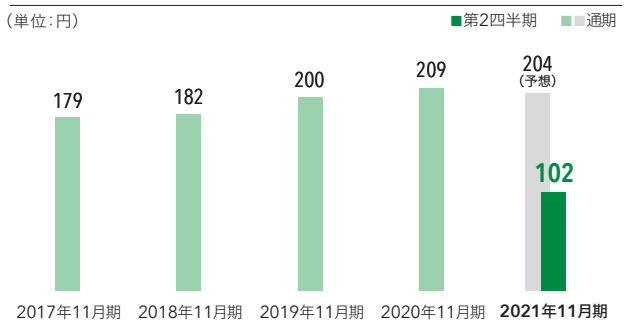
経常利益



総資産・純資産・自己資本比率



1株当たり当期純利益



(注)「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号2018年2月16日)等を2019年11月期の期首から適用しており、2018年11月期の総資産についても遡及して修正しております。

(注)当社は、2019年5月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。1株当たり当期純利益については、当該株式分割の影響を遡及修正した数値を記載しております。

MEAT PRODUCTS



執行役員 食肉食材本部長 **中村 繁之**

ラクト・ジャパンの 食肉加工品事業

事業環境変化を捉えた多様なチャレンジが進行中の食肉加工品事業。同事業の戦略などについて、執行役員 食肉食材本部長の中村からご説明します。

一方で、リスクヘッジの一環でカナダ、スペインなどからの調達を拡大してきたことも功を奏し、コロナ禍の影響で不透明感が増した事業環境下にもかかわらず安定的に原料を調達することができました。今後、世界的な人口の増加などで食肉の需要増大が予想されていますが、サプライヤーとの関係強化と多様化の両面から安定的な供給に取り組んでいきます。

成果が見え始めた取扱商品の拡充

事業機会の拡大やコロナ禍など予想できない事柄を含めたリスク対応のために、現在、取扱商品の拡充を積極的に進めています。

事業全体に占める割合はまだ多くありませんが、取扱量はここ数年で着実に伸びています。特に、豚



肉に一次的な加工を施した商品は、食品メーカーのお客さまの手間を省くこともできるためニーズも高く、当社にとっては収益性の面からも魅力があるため、今後の展開に期待しています。

「食肉食材本部」は新たな食材の開拓という使命も担っています。そこで、最近では商社事業の枠を超え、とんかつ、ハンバーグなどの製造・販売にも着手しています。食品メーカーで加工食品の開発を担当していた方やイタリアの1つ星レストランでの経験を持つシェフとのコラボレーションで商品開発を進めており、まずは委託製造と販売を軌道に乗せることを目指して、販路開拓を進めています。

また、意外なところではハチミツの輸入も始めており、コロナ禍における健康志向の高まりで取扱量が増えました。

“肉”をよく知る強みを活かしながら、食材全般を視野に入れ、時代のあらゆる食のニーズに応えていきたいと考えています。

ESGに配慮した事業活動

食に関わる事業者は、環境や生態系の保護などと無縁ではられません。特に畜産・酪農の分野で注目されているアニマルウェルフェア（動物福祉）では、EUが期限を設けて動物にストレスを与えない飼育環境の整備を定めるなど、先進的な取り組みが始まっています。ヨーロッパと取引がある食肉事業者として、私たちもサプライヤーやお客さまにESGに配慮した取り組みを働きかけるなど、積極的に対応してまいります。

チャレンジを重ね、 事業環境の追い風に乗る

豚肉の国内流通量の約半分はすでに外国産が占めていますが、生産性の差を考えれば輸入の割合がさらに高まるのは必至です。TPPや日欧EPAによる関税の低減も含めて、事業環境は追い風にあります。

また、当社の乳原料・チーズ部門とは、客層の一致など連携を図ることができる面もあるため、シナジー創出の機会を探るとともに、今後もチャレンジを重ねて、会社全体の成長に繋げてまいります。

COLUMN

世界で一番有名な生ハム “Prosciutto di Parma”とは？

豊かな食文化は各地の風土のたまもの

気候風土等の環境に合わせて「いかに食料を確保するか」。

この大きな課題に立ち向かうための創意工夫の積み重ねが各地の食文化につながり、さまざまな形で発展しています。

ヨーロッパで畜産や酪農が盛んな理由には、夏が乾期で冬に雨が降り多い気候とその地形から耕作が難しく、土地の用途が牧草地に限られていたことがあります。有名な生ハム“Prosciutto di Parma（パルマ産生ハム）”もそうした気候風土を背景に生まれたものです。

パルマ産生ハムを育んだ 気候と地形とは？

イタリア北部のパルマ近郊にあるランギラーノ地域は、世界で最も有名な食肉加工品“Prosciutto di Parma”の生産地です。“Prosciutto di Parma”を名乗ることができるのは、ティレニア海から吹き込む冷涼な空気と、盆地特有の朝夕の寒暖差が大きいこの「地域」で、「伝統の製法」によって生産された生ハムのみです。



お試しあれ！ イタリア流の生ハムの楽しみかた

当社も輸入している“Prosciutto di Parma”は、意外にも白ワインやスパークリングワインによく合い、焼酎や日本酒とも相性抜群です。豚肉は魚より脂質の融点が高いため、召し上がる15分ほど前に冷蔵庫から取り出しておくと、「脂の風味」をより楽しめます。イタリアでは、食欲の落ちる7～9月ごろにパンにはさんでサッパリと食すそうなので、日本人にとっての「そうめん」のような存在かもしれません。こんなところにも、食文化の違いを感じることができます。



コミュニケーションのひろば

前回のLJ通信に同封させていただいたアンケートには、多くの株主の皆さまからご回答をいただきました。ご協力に心より感謝いたします。

アンケートでは、「海外事業の展開は?」「乳原料・チーズ事業の今後は?」など、ラクト・ジャパンの事業についてもっと詳しく知りたいというご意見をいただきました。

これまで、第2四半期発行のLJ通信で事業部門をひとつずつ紹介し、成長戦略などをご説明してきましたが、今回の「コミュニケーションのひろば」では、改めてバックナンバーをご紹介します。ぜひご覧ください。

LJ通信バックナンバーのご紹介



LJ通信 Vol. 6

(2018年11月期第2四半期)

「ラクト・ジャパンのチーズ事業」
当社事業の根幹となる乳原料・チーズ部門から、チーズ事業にスポットを当て、優位性や事業環境変化に対応するための戦略などについてご説明しています。



LJ通信 Vol. 8

(2019年11月期第2四半期)

「ラクト・ジャパンの乳原料事業」
ラクト・ジャパンの設立から現在に至るまで、当社の中核のひとつである乳原料事業について、お客さまに信頼をお寄せいただける理由やさらなる成長を約束する当社の強みをご紹介します。



LJ通信 Vol. 10

(2020年11月期第2四半期)

「ラクト・ジャパンのアジア事業」
当社グループの成長エンジンとして期待が高いアジア事業について、その特徴やアジア市場における優位性と成長戦略、さらに世界のラクト・ジャパンになるための課題や取り組みなどについてご説明しています。



<https://www.lactojapan.com/ir/library/report.html>

Shareholders Information

株主メモ

事業年度	12月1日から翌年11月30日まで
基準日	11月30日 そのほか必要がある場合は、あらかじめ公示いたします。
単元株式数	100株
株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関	三井住友信託銀行株式会社
同事務取扱場所	〒100-8233 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-782-031(フリーダイヤル)

■ 株券電子化に伴い、株主さまの住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三井住友信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。

■ 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三井住友信託銀行が口座管理機関となっておりますので、左記の特別口座の口座管理機関(三井住友信託銀行)にお問合せください。なお、三井住友信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。



より詳細なIR情報は、当社ホームページをご確認ください

〒103-0027 東京都中央区日本橋二丁目11番2号 太陽生命日本橋ビル22F TEL:0570-055-369
【株主・投資家情報】 <https://www.lactojapan.com/ir/Top.html>